

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公表番号】特表2013-536232(P2013-536232A)

【公表日】平成25年9月19日(2013.9.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-049

【出願番号】特願2013-526060(P2013-526060)

【国際特許分類】

A 6 1 K	35/14	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/20	(2006.01)
A 6 1 P	31/14	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	35/14	Z
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	31/20	
A 6 1 P	31/14	
A 6 1 P	31/18	

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月22日(2014.8.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

T h 1 / キラー細胞を含む組成物であって、

(1) 前記 T h 1 / キラー細胞が、T h 1 特性と細胞溶解活性を有する、又は、

(2) 前記 T h 1 細胞 / キラー細胞が、腫瘍細胞株に対して細胞溶解活性を有する C D

4 + 細胞である、組成物。

【請求項2】

(1) の前記細胞溶解活性が N K 特性を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記 T h 1 / キラー細胞がグランザイム B およびパーフォリンを発現する、又は、I F
N - ガンマを発現する、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

(1) の前記 T h 1 / キラー細胞は、

a) I L - 4 の発現を実質的に減少させるかあるいは I L - 4 を全く発現しない、又は
b) C D 4 + 細胞である、又は

c) C D 3 および C D 2 8 の架橋剤で調合される、又は

d) 正常なドナーの末梢血液から得られる、請求項1に記載の組成物。

【請求項5】

(1) の前記組成物は、

a) 臨床的に意義のある数の T h 1 / キラー細胞を含む、又は

b) 少なくとも 1×10^7 個の細胞を含む、又は、

c) 少なくとも 1×10^8 個の細胞を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記 T h 1 / キラー細胞の (1) の前記細胞溶解活性は、正常細胞ではなく異常細胞を特に不活性にし、

前記異常細胞は、癌細胞、感染細胞またはそれらの細胞の組合せを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

(2) の前記 T h 1 / キラー細胞は、

a) T h 1 特性を含む、又は

b) 正常細胞を不活性化しない、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

(2) の前記腫瘍細胞株は、ARH77 である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

異常細胞を破壊するために用いられる組成物であって、

前記組成物は、同種異系の T h 1 / キラー細胞を含み、

前記異常細胞と前記 T h 1 / キラー細胞との相互作用により前記異常細胞が破壊される、使用のための組成物。

【請求項 10】

前記 T h 1 / キラー細胞は、T h 1 特性および細胞溶解活性を発現する、請求項 9 に記載の使用のための組成物。

【請求項 11】

a) 前記 T h 1 / キラー細胞の前記細胞溶解活性が、グランザイム B - パーフォリンの発現を含む、又は

b) 前記 T h 1 特性が、IFN - ガンマの発現を含む、又は

C) 前記 T h 1 / キラー細胞が、IL - 4 の発現を欠く、請求項 10 に記載の使用のための組成物。

【請求項 12】

a) 前記 T h 1 / キラー細胞が、架橋抗 CD 3 / 抗 CD 28 モノクローナル抗体とともに CD 4 + T 細胞の活性化により得られる、又は、

b) 前記異常細胞が、癌細胞、感染細胞、またはそれらの細胞の組合せを含む、請求項 9 に記載の使用のための組成物。

【請求項 13】

治療に使用される組成物であって、

前記組成物が、臨床的に意義のある数の T h 1 / キラー細胞を含む、組成物。

【請求項 14】

前記 T h 1 / キラー細胞が、CD 4 + 細胞である、請求項 9 又は 13 に記載の使用のための組成物。

【請求項 15】

a) 前記 T h 1 / キラー細胞が、T h 1 特性と細胞溶解活性を発現し、

前記 T h 1 / キラー細胞は、抗 CD 3 / 抗 CD 28 モノクローナル抗体に結合され架橋されるビーズにより活性化され、又は、

b) 前記 T h 1 / キラー細胞は、正常なドナーの末梢血液から得られる、又は、

c) 前記 T h 1 / キラー細胞は、患者にとって同種異系である、又は、

d) 前記臨床的に意義のある細胞数は、少なくとも 1×10^8 個である、請求項 13 に記載の使用のための組成物。